

さきょうくしゃきょうだより



マスコットキャラクター
あかりちゃん

「さきょうくしゃきょう」は社会福祉法人京都市左京区社会福祉協議会の略称です

特集

買い物に困る地域に企業が動いた！

企業の地域貢献活動から生まれた住民同士の見守り合い



地産地消にこだわりの品ぞろえ



自然と話が弾みます



移動販売を利用する地元のみなさん

目次

- P.2 特集 買い物に困る地域に企業が動いた！
企業の地域貢献活動から生まれた住民同士の見守り合い
- P.3 ボランティアグループ連絡会加入グループ紹介
- P.4 地域で暮らす住民を支える取組を紹介



特集

買い物に
困る地域に

企業が動いた！

企業の地域貢献活動から生まれた住民同士の見守り合い

京都中心部から、車で40分程の位置にある“花脊”。この地域では高齢化がすすみ、日常の買い物に困難を感じている人が増えています。住み慣れた地域での暮らしを支える取組として、右京区京北にあるスーパーマーケット「サンダイコー」による移動販売が始まりました。企画された吉田 烈士さん、販売ドライバーの橋本 竜二さん、移動販売を利用している地元のみなさんからお話をお聞きしました。



移動販売を始めようと思ったきっかけは
何でしょうか？



吉田さん 地域全体で高齢化が進んでおり、店舗までお越しいただくことが難しくなっているという声をお聞きするようになりました。また、認知症と思われるご高齢の方が店舗にお越しになることで安全面でも心配していました。そこで、今までお世話になった地域に何かお返しできないかと考え、以前より要望のあった移動販売を平成30年10月よりスタートしました。



工夫していることや
嬉しかったことはありますか？



橋本さん よく購入されている商品の傾向について分析し、品切れのないようにしています。また、お客様の顔と名前を覚え、名前呼び話しかけることができるようになってからは、親近感を持っていたけるようになりました。今では、息子を待っていてくれるように出迎えていただくようになり、それが嬉しくてやりがいにつ

ながっています。



そのほかに、印象的
なエピソードはあり
ますか？



橋本さん 販売先で
いつも来られている

方の姿が見えなかったりすると、他の方は「どうしてもやる？」と心配されています。これが続くと、私も一緒に、みんなでその方のお宅を訪問したりします。この移動販売を通して「自然な見守り合い」ができていくことに、続けていく意義があると思いました。



吉田さん 買い物が難しくなった方がおられたら、学区社協の方から「〇〇さんのところにも顔を出してほしい」といったご相談をお受けすることがあります。この取組が必要とされる存在になってきているように感じており、「やってよかった」と感慨深く思います。

地元の方からお話を伺いました。



移動販売で暮らしは
どう変わりましたか？



上田 愛子さん

商品を手にとり違いを見て選ぶことができ、欲しいものは次週もってきてもらえるから有り難いです。ここにくる人の間では「今日は体調どう？」と自然に会話が生まれています。また、いつも来ている人が来ない日が続くとその方の家を訪ねたりしています。



花脊社会福祉協議会 上田 捷男 会長

初めは花脊地域だけの販売でしたが、関係者とやりとりをして、同じ悩みをもつ別所地域や広河原地域へも対応してくれることになりました。



広河原学区社会福祉協議会 宇田 正明 会長

広河原では家々を回ってくれているので、高齢者はとても助かっています。山間地域では地元調達しづらいお寿司やお造りが人気です。



別所社会福祉協議会 中村 多鶴子 会長

近くに来てくれるので、利用者は重い荷物を持ち歩かなくてもいいので非常に助かっています。

ボランティア
グループ連絡会
加入グループ
紹介

まちの縁側 ぽかぽか茶屋

運営されている白田さんと中村さんにお話をお聞きしました。



左：白田 美佳さん
右：中村 敏美さん

「ここに来る人も運営している人も、みんなが楽しめてホッとできる場所があればいいな。」という思いで始めました。当初、人がきてくれるか心配していましたが、今では「この場所があってよかった。」「ここ来ると家に帰ってきたみたいほっこりします。」という言葉が聞かれます。1階には、カフェスペースや子どもと一緒に過ごせるスペースがあります。地域の人が育てた採れたて野菜や手作り品の販売をしています。2階の貸しスペースでは、親子リズム体操や健康トークなど楽しいプログラムを行っています。

誰でも自由に来れる、そんなまちのほっこりできる場所がぽかぽか茶屋です。



こだわりのコーヒーを是非どうぞ！



色々な世代の方が集まっています

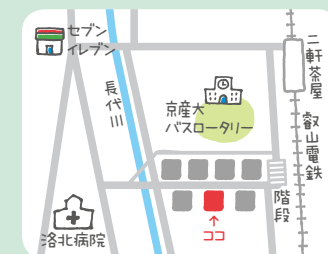
ご興味、ご関心を持たれた方は、ぜひ一度お越し下さい。

〒601-1123 京都市左京区静市市原町910-27

開所日 月曜、水曜、木曜、第一土曜日（祝日休業）
時間 午前11時～午後4時 TEL.080-2532-6606
アクセス 叡山電鉄 二軒茶屋駅より徒歩2分
京都バス 二軒茶屋・地球研前より徒歩5分



▲Facebook



図は有りません。公共交通機関でお越し下さい

安心して活動するために

ボランティア保険・福祉行事保険のご案内

ボランティア保険 … ボランティア活動をする「個人」が対象となる保険です。かける保険で参加者全員が対象となる保険です。

- 年間保険料（1名につき）
基本コース Sプラン 250円 Aプラン 300円 Bプラン 500円 ※天災コースもございます。
- 加入期間 保険料振込日の翌日～当該年度の3月31日までが保険期間となります。（年度単位）

福祉行事保険 … ボランティア団体等が行う非営利の公益的な行事や活動にかかる保険で参加者全員が対象となる保険です。

- 保険料（参加者1名につき） 日帰り行事 30円から 宿泊行事 238円から

加入手続きは、各区社会福祉協議会・京都市社会福祉協議会が窓口となっております。

問合せ先 京都市左京区社会福祉協議会 ☎075-723-5666
取扱い代理店 (株) エスアールエム ☎075-255-0881

地域で暮らす住民を支える取組を紹介

左京区社協では、“こころのひとりぼっちをなくそう”を合言葉に誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指しています。

地域あんしん支援員が地域と「社会的孤立」をしている人をつなぐ粘り強い支援を展開

地域あんしん支援員は、福祉的なサポートが必要であるにもかかわらず支援の利用を拒否する方、制度の狭間にある方などに対し、行政等の関係機関や地域住民との連携のもと、寄り添い支援を行い、自立を目指して活動しています。

寄り添い支援事例

知的障害のある30代男性Tさんは、母親の死後、一人暮らしとなり室内はごみ堆積。食生活が乱れ糖尿病が悪化、人目が気になるため深夜に外出するという状況でした。本人を心配した民生委員より相談があり、日常生活や健康面の改善と社会参加に向け、寄り添い

支援が始まりました。初めは、訪問をしても会えず、日常の何気ない内容を記載した手紙の投函を続けていました。6か月が過ぎた頃、初めて本人と会えて、あんしん支援員が案内した配食サービスを利用することで、徐々に生活が安定してきました。現在は、自身で玄関先の片づけにも着手、日中1人での外出を目標にあんしん支援員と外出練習も試みています。

※この事例は個人が特定されないように内容を加工しています。

日常生活自立支援事業から社会参加へとつながる

この事業は、病気や障害により福祉サービスの利用やお金の管理について自身で判断することが難しい、という方を「専門員」と「生活支援員」が地域で安心して暮らせるようにお手伝いする事業です。

自立支援事例

精神障害のある50代男性のMさんは以前は“人との関わりを避けたい”という思いから引きこもりがち

でした。そんな本人の様子をみた生活支援員から自宅近くで学区社協が開催している「地域住民が集うサロン」をすすめられたことがきっかけで外出するようになり、現在は毎月参加されています。

※この事例は個人が特定されないように内容を加工しています。

本人と支援者の声



本人

初めは知らない場所へ行くのは抵抗があり断っていましたが、生活支援員とのやりとりで、どんどん気持ちが前向きになったことがきっかけです。



サロン
スタッフ

当初は「精神障害者」と聞いて、どう対応すればいいのかわからず悩んでいました。専門員から、気負うことなく普通に接してみてもどうか、と助言を受け、楽な気持ちになりました。



生活
支援員

本人にとって、なくてはならない、唯一安らげる場所なのでは、と思います。サロンの話をするときの表情は、本当に嬉しそうでイキイキしています。

※この事例は個人が特定されないように内容を加工しています。

本誌に関する内容についてご興味・ご関心のある方はこちら。社協に関する情報は、本誌の他、ホームページ・SNSでもご紹介しています。

社会福祉法人
京都市左京区社会福祉協議会
左京区ボランティアセンター

発行責任者 山田 栄一

〒606-8103 京都市左京区高野西開町5番地

京都市左京合同福祉センター 3階

TEL 075-723-5666 / FAX 075-723-5665

E-mail s-csw@sakyoku-syakyo-kyoto.jp

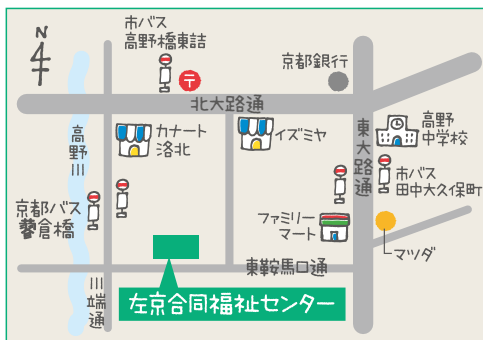
ホームページ <http://www.sakyoku-syakyo-kyoto.jp/>



▲Twitter



▲Facebook



Pはありません。公共交通機関でお越し下さい。